

## 第3学年美術科学習指導案

日時：令和4年11月9日（水） 5校時

学級：花巻市立花巻中学校3年4組

会場：第2美術室

授業者：柳田 利子

### 1 題材名 郷土の作家 松本竣介「立てる像」を読み解く

### 2 題材について

#### (1) 生徒について

中学3年生という時期には、自分の人生を自分で選択する意識も芽生え、様々な考え方にも成長が見られる時期である。年度初めから2学期まで続いた自画像制作による自己開示も経験している。自分の自画像を完成させた経験を生かし「自画像」だからこそできる気付きや考え方を大切にしながら深い鑑賞に迫らせた。

本学級では鑑賞に取り組もうとする意欲はあるが、自信がなく全体の場で積極的に意見交流をしようとする意識を持つ者は少ないので、一人ひとりの思いを尊重する雰囲気を作り積極的な交流を目指したい。

自画像に関して技術的な面だけでなく、人によって様々に感じることでできる本教材は、驚きとともにそれぞれの個性と鑑賞の面白さを感じることでできるのではないかと考える。

#### (2) 教材について

本教材では鑑賞する対象として、花巻にもゆかりのある作家、松本竣介の作品を取り上げる。「立てる像」は神奈川県立近代美術館に収蔵されている作品で、戦後まもなく36歳で没した竣介の代表作である。「都会の風景と人間とを静かに見つめた松本竣介のこの作品には、静まりかえった街に両足を踏ん張って立つ青年像が描かれている。仁王立ちをしながらもどこか不安げな表情をしたその青年は、暗い時代に抵抗しつつ画家としての生き方を見つめ直そうとしている等身大の自画像とも見ることができる。(美術館 解説より一部抜粋)」と評されている。

この作品は、描かれている対象物が比較的少なく、青年とその背景に広がる街との対比により様々な見方ができる作品である。作者の心情や表現の意図と工夫などについて、自分の感じたことや気付いたこと、考えたことなどについて、互いに説明し合う中で、自分にはない新たな見方や感じ方に気付くことができると考える。

また、自画像を制作してきた経験を基に、主題と表現の工夫を関連させて捉え、作者の心情や創造性などについて感じ取り、外形には見えない本質的なよさや美しさなども捉えることと、作品に関わる様々な思いが、美術作品の価値の根源にあることを感じ取らせた。

3年間の美術の学習の流れの中で、今まで鑑賞してきたことを踏まえ、鑑賞の集大成にできる題材ではないかと考える。

#### (3) 指導について・研究との関わり

本校の研究主題である主体的に学び続ける生徒の育成～いわての授業づくり3つの視点からの授業改善～を本題材の交流場面において推進する。この題材で扱う作品は様々な見方や感じ方ができるので、交流によって自分とは異なる感じ方に触れ、鑑賞の力を高めることができると考えている。

#### (視点1)「学習の見通し」

→学習課題を具体的に評価規準とともに示すことによって学習の手順や見通しを理解しやすくする。

(視点2)「学習課題を解決するための学習活動」

→自分の考えを、友達の考えと比べながら交流する、理由や根拠が分かるように表現する、自分とは相反する鑑賞も鑑賞文に盛り込むなど、「見方、考え方」を働かせながら主体的に取り組みやすい学習活動を充実させる。

(視点3)「学習の振り返り」

→身に付けたことを振り返り、課題解決の達成感や学習内容の有用感を感じながら、振り返らせる。また、振り返ることによって次時の学習や今後の生活に結びつけさせたい。

さらに、本題材の学習を展開するにあたっては、自画像を制作した体験を振り返り、松本竣介の作品に込められた意味を感じさせたい。郷土作家の作品を鑑賞することによって自分の作品を見られることに抵抗感がある生徒でも作品を安心して味わい、感じたことを表現できるのではないかと考える。様々な見方や考え方が必要となる本教材に取り組むことで、意見の交流によって様々な感じ方に触れ、鑑賞の力を付ける機会としたい。また、どのような感じ方にも不正解はなく、自分ならではの感じ方こそ唯一無二の価値があることを感じさせたい。お互いの意見を認め合うことに喜びを感じる機会をつくりたい。

(4) 題材の目標

【知識及び技能】

- ・形や色などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などをもとに作品の印象を捉え雰囲気として表現することを理解する。([共通事項] ア、イ)

【思考力、判断力、表現力等】

- ・作品の造形的な美しさやよさを感じ取り、作者の心情や作品の印象などについて考えるなどして、美術的な見方や感じ方を深める。([B鑑賞] (1) ア)

【学びに向かう力、人間性等】

- ・美術の鑑賞の喜びを味わい、作品の美しさや作者の心情などをもとに、作品の造形的な美しさやよさを感じ取ろうとしている。
- ・作品の美しさや作者の心情や作品の印象などについて考えるなどして、美術的な見方や感じ方を深めようとしている。

(5) 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
《知》 ・形や色などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などをもとに作品の印象を捉え雰囲気として表現することを理解している。	《鑑》 ・作品の造形的な美しさやよさを感じ取り、作者の心情や作品の印象などについて考えるなどして、美術的な見方や感じ方を深めている。	《態鑑》 ・美術の鑑賞の喜びを味わい、作品の美しさや作者の心情などをもとに、作品の造形的な美しさやよさを感じ取ろうとしている。 ・作品の美しさや作者の心情や作品の印象などについて考えるなどして、美術的な見方や感じ方を深めようとしている。

(6) 指導と評価の計画

時間	学習活動	観点			評価規準【評価方法】
		知技	思	態	
1 本 時	・郷土の作家である松本峻介の「立てる像」について交流し、鑑賞文を書く。	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・形や色などが感情にもたらす効果や造形的な特徴などをもとに、作品の印象を捉え雰囲気として表現することを理解している。【発言の内容、鑑賞プリントの内容】</li> <li>・作品の造形的な美しさやよさを感じ取り、作者の心情や作品の印象などについて考えるなどして、美術的な見方や感じ方を深めている。【鑑賞プリントの内容】</li> <li>・美術の鑑賞の喜びを味わい、作品の美しさや作者の心情などをもとに、作品の造形的な美しさやよさを感じ取ろうとしている。</li> <li>・作品の美しさや作者の心情や作品の印象などについて考えるなどして、美術的な見方や感じ方を深めようとしている。【観察、プリント、発言の様子】</li> </ul>

3 本時について

(1) 題材の目標

【知識及び技能】

- ・形や色などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などをもとに、作品の印象を捉え雰囲気として表現することを理解する。([共通事項] ア、イ)

【思考力、判断力、表現力等】

- ・作品の造形的な美しさやよさを感じ取り、作者の心情や作品の印象などについて考えるなどして、美術的な見方や感じ方を深める。([B鑑賞] (1) ア)

【学びに向かう力、人間性等】

- ・美術の鑑賞の喜びを味わい、作品の美しさや作者の心情などをもとに、作品の造形的な美しさやよさを感じ取ろうとしている。
- ・作品の美しさや作者の心情や作品の印象などについて考えるなどして、美術的な見方や感じ方を深めようとしている。

(2) 評価規準

題材の評価基準に同じ

(3) 本時の指導構想 (研究主題との関わり)

「指導について・研究との関わり」に同じ

(4) 展開

	学習内容	指導上の留意点	☆研究との関わり ●評価、★資料
導入 6分	1 松本竣介の「立てる像」を鑑賞し、題名を予想する。 2 どんな予想なのか何人か発表する。 3 自分なりの考えと比較しながら発表を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感じ取った印象と、そう感じた根拠を関連付けて鑑賞していくことを確認する。</li> <li>・自分の感じたことと作者の思いとの重なるところ、違うところを感じさせる。</li> </ul>	☆(視点1) 課題解決に向かったの評価の規準を確認する。 ★鑑賞作品 ★学習プリント ●作品の美しさや伝えたいメッセージをもとに、作品の造形的な美しさやよさを感じ取り、考えようとしている。〔態鑑〕
課題：「立てる像」を描いた松本竣介は、どんな心情だったのか考え鑑賞文にまとめよう。			
展開 36分	4 松本竣介の生い立ち、時代背景を学習プリントにまとめる。 5 この題名はどうして付けられたのか考え、プリントに記入する。 6 グループ内で交流し、様々な考え方に触れる。 7 交流したことを生かし、鑑賞文にまとめる。 8 発表された鑑賞文を全体で聞き味わう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポイントを押さえて生い立ちを理解させる。</li> <li>・作者の様々な感情が入り交じった複雑なものとして想像し、自分の考えを書けるようになるがす。</li> <li>・交流の際メモを取ることを指示する。</li> <li>・どうしてそのように感じたのか根拠を示させる。</li> <li>・交流したことを生かし鑑賞文にまとめさせる。</li> </ul>	★紙板書 ●形や色などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などをもとに作品の印象を捉え雰囲気として表現することを理解している。〔知〕(観察、プリント) ☆(視点2) 対話的課題解決 ●作品の造形的な美しさなどを感じ取り、作者の心情や作品の印象などについて考え、美術的な見方や感じ方を深めている。〔鑑〕(観察、プリント) ●美術的な見方や感じ方を深めようとしている。〔態鑑〕(観察、プリント)
終末 8分	9 新聞の作品評を鑑賞する。 10 作品の捉えが、交流によって深まったことを振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの鑑賞文と比較して味わわせる。</li> <li>・授業の中で深まった所をプリントに記入し振り返らせる。</li> </ul>	★朝日新聞の作品評 ☆(視点3) 振り返りによる有用感